

カリタス女子短期大学 卒業生の活躍

森内裕子(旧姓荒井)(1988年卒業)

「異質なものととの出会い」

フランス語は1986年にカリタス女子短大仏語科に入学して初めて出会った。口語仏語の最初の授業が今も忘れられない。アガタ・ベルニエ先生(スール・アガタ)はフランス語未修で入学した私達に「あざみ野駅から学校までの間に目にしたフランス語にはどんな言葉がありましたか?」とにこやかに問いかけられた。「カフェ、アンジュブラン、コロラド…」と中にはフランス語とは全く関係ないカタカナやアルファベットで書かれたものなら何でも挙げていたことを思い出すと、今でも吹き出してしまう。初めてフランス語に触れる学生達が少しでもスムーズにフランス語学習をスタートできるように、という先生の心配りである。

このようにカリタスのフランス語の授業は、語学学校で初めて習うフランス語のスタイルとは少し違う。20年前とはいえ、口語仏語・仏語文法・フランス文学・フランス文化・仏語学等、フランス語やフランスに関する授業の他にも、外国語や外国文学を学ぶ上で基礎となる国語表現法(日本語の表現)や日本文学の授業も充実していた。フランス語を学び始めると、その難しさに愕然とすることがある。文法的なことはもちろんのこと、フランス文学作品の中にはカトリックの精神や西洋思想を理解していないと読みこなせないものがあるからである。日本文化や日本文学にはない考え方に遭遇する。この時の違和感や異質なものを理解するといった経験が卒業後の人生に大きく役立つことになる。

仏語科を卒業後、大手電子部品メーカーの海外営業部に入社した私は欧州向け部門に配属となった。もちろん、取引先にはフランスの企業も含まれていた。海外取引先からの注文の対応に追われる中で貿易実務を身につけ、アジアに関連企業があるフランス企業との取引も担当することになった。その後、国際電話会社に転職し、各業界から人材が集まった回線企画部門において、お互いに刺激し合いながら、営業部門では得られなかった知識や経験を積むことができた。異質なものを受け入れる心構えをカリタスで学んだからこそ、違う環境にも飛び込めた。

ところが、私の異質のものへの挑戦はこれだけでは終わらなかった。結婚後の1993年に夫の転勤で台湾に駐在することになったからである。



国立台湾師範大学内の孔子像の前

生活するためには否が応でも中国語をマスターしなくてはならず、台北市内の小さな語学学校で中国語を習い始めた。中国語の発音には、日本語の発音にはないが、フランス語にはある発音(似ている発音)が存在した。学べば学ぶほどその面白さと奥深さに取り付かれ、ついには国立台湾師範大学(国語教学中心)へ念願の留学を果たした。そこは主婦根性である、何とか学費負担を軽減できないかと考え、台湾教育部(日本の文部科学省にあたる)の奨学金支給留学生の審査に申込み、成績審査を経て学費1年分を頂いた。奨学金のお陰で中国語や中国文学の学習に集中することができた。5年ほどの駐在生活を終えて、日本に帰国したのは1998年のことである。

日本に帰国後も台湾で学んだ中国語や中国文学熱は冷めず、中国古典文学を専門に学ぶにはやはり大学への編入が一番と考え始めた。まずは学費準備のために働き始め、通勤途中や帰宅後の家事の合間に自力で受験勉強に励んだ。何十回も志望大学の志望理由書を書き直して完成させた。志望大学のシラバスや教授、助教授陣の専門を調べ、編入学後の卒論(卒業研究)まで念頭において受験した。



お茶の水女子大学正門前

その結果、2002年にお茶の水女子大学 文教育学部 言語文化学科(中国語圏言語文化コース)に合格することができた。異質なものを如何にして受け入れるかを考える機会を与えられた、カリタス仏語科の教育のお陰である。

お茶の水女子大学編入後には、語学の先生のお誘いもあり、「日中辞典」(講談社)の出版のための作業メンバーに加えて頂き、各単語の発音記号(ピンイン)入力作業を行なった。辞書作りはとても大変な作業であるが、語学辞典ができる過程を知る機会は非常に少ないので、貴重な経験となった。



本学図書館に寄贈して頂きました

ちなみに、この辞典はすでに書店に並んでいる。

カリタス仏語科卒業後の20年間は、私にとって異質なものであったフランス語から更に異質な中国語への転換、メーカーの海外営業から異質な国際電話会社(通信業界)への転職と、異質な環境への挑戦ばかりだった。現在とは言えば、仏語科卒業後に入社したメーカーで培った貿易実務の知識と、国際電話会社で経験した通信に関わる知識を生かしてIT業界に再就職し、台湾で学んだ中国語を使い、台湾・中国と取り引きしている。振り返ると全ての辻褄が合う。偶然だろうか、とてもワクワクした気分である。

カリタス女子短期大学 卒業生の活躍

お茶の水女子大学大学院 土屋陽子(2003年卒業)

食と外国語。この2つが、これまでの私の人生のベースになっていると、24年間を振り返ってつくづく思う。中学時代に遭遇した2つの偶然 卵と粉と砂糖さえあれば、自分の手から大好きなお菓子が生まれること。英語力を向上させるべく始めた海外文通の相手が、偶然フランス人の女の子だったこと。 が、現在の私のスタート地点だ。高校時代は毎日のように台所に立ち、家族や友人のために新しいレシピを考えたり、出版社主催のケーキコンテストに出場したりと、明けても暮れてもお菓子三昧の日々だった。



お菓子作りと文通を通じて、フランスへの好奇心をくすぐられた私は、洋菓子職人になるべくフランスで修行をしようと決意し、そのためにフランス語を自分のツールにしたいと考えた。それを実現させるためのステップを熟考していた矢先、カリタスの存在を知った。少人数制の授業スタイル、先生方の熱心さ、そして派遣奨学制度に魅力を感じ、入学を決めた。

入学後は、アー、ベー、セー、からフランス語を学んだ。目標だった長期派遣奨学試験にも無事合格することができ、1年間の語学留学を経験させていただいた。フランス人学生が暮らす寮での共同生活や、CIDEFでの学校生活は、毎日がカルチャー・ショックに満ち満ちていた。自己主張と調和の意義や、一般論に執着しない姿勢、そして豊かな人生というものを、私はフランスで学んだ。

この留学によって、洋菓子だけでなく、より多角的にフランスの文化を追及したいという思いが強くなった私は、迷わず大学への編入を決めた。カリタスの先生方の親身なサポートのおかげで第一志望の大学に編入することができ、現在は同大学の大学院で仏文学を研究しながら、修士論文の制作に向けて日々奮闘している。



7年間の学生生活から得たものを素材として、これからの私に何ができるだろう。こうした思いのもと、昨年末から行ってきた就職活動において、私の中でキーワードになっていたのが、Cultureという言葉だった。この単語には、「文化」という意味の他に「教養」という意味がある。食と外国語への好奇心からカリタスに入学し、留学、編入を

お茶の水に在籍するカリタシエンヌ 経て、かつては想像もしなかった大学院に身を置いていることを考え、Cultureがいかに自分の人生を耕してくれるかを実感していた。そして何より、フランスは Culture に価値を置く国だった。日本でもそういった土壌をもっと育ていきたい。この夢に挑戦できる企業を探し、幸いにも、思いを受け止めてくれた出版社から内定を頂くことができた。好奇心を追究し、学び続けてきたことの責任を、こうした形で社会に生かせること、そして Culture の本質を教えてくれ、私の可能性のサイズを広げてくれたカリタスに、心から感謝している。

Quelques nouvelles du site de chansons de Caritas

Eric BOGNAR (本学教授)

frenchpops.net について

前回フレンチポップスのサイトの新しい情報をフランス語で書きましたが、今回はあらためて簡単に日本語で説明します。フレンチポップスと聞くと、あなたはどのような音楽を思い浮かべますか？おそらく60年代、70年代の昔のアイドル音楽が一般的なイメージといったところでしょう。

私が「フレンチポップス 100年史」というゼミで行った内容を発展させて、frenchpops.net というウェブサイト運営しています。そこでは、フランス語で歌われた曲を広い括りの「フレンチポップス」として、日本語で紹介しています。もちろん昔のシャンソンやアイドルのポップスも紹介していますし、2000年以降の nouvelle chanson française (アナイス、クリストフ・マエ)そしてラップやR&B(ディラムス、アメル・ベント)、またガレージロック(プロトタイプス)やメタル(エツ)なども広く取り上げて、様々な現代のフランス語で歌われた曲を紹介して行くつもりです。現在300曲を紹介しています。

また今年の4月からブログの形でも、最新の音楽情報を紹介しています。ブログはウェブサイトと違い、音楽ニュースや新曲や新人アーティストの紹介を中心に載せています。音楽を通して、もっとフランス語を楽しく学び、現代のフランス社会を覗いて欲しいと思っています。

<http://frenchpops.blogspot.com/> に気軽にアクセスしてみてください。

キャンパス見学会 予約不要 13:30~16:00

8/22(金)9/6(土)10/5(日)11/22(土)12/20(土)1/24(土)2/7(土)2/21(土)
3/6(金)3/18(水)

あざみ祭 入試相談コーナー 13:30~16:00 10/26(日)

オープンキャンパス 予約不要 13:30 開始 7/19(土)8/8(金)9/13(土)

フランス語海外研修

2月から3月にかけて一ヶ月、フランスのルーアンで1年生の希望者11名が、語学学校 Alliance française de Rouen



にて語学研修を受けました。ルーアンは、『ボヴァリー夫人』で有名なギュスターヴ・フロベールやジャンヌ・ダルクゆかりの街ですが、モネが描いた連作『大聖堂』を思い出す方も多いことでしょう。短期派遣奨学生の二人もこのグループに参加しました。報告レポートから皆さまに学生たちの奮闘ぶりや成長の記録をご紹介します。

小林友里恵（仏語・仏語圏文化専攻2年）

ホストファミリーとは、出来るだけ多くのコミュニケーションを取る為に、夕食後など、お互いに時間があるときを探し、早々と自分の部屋に戻るのではなく、早くフランス語に慣れる為にも沢山話すように心がけた。



大聖堂

ホストとは毎日1日したことを話す約束をしていて、ことばに詰まりながらも一生懸命話す練習をし、私のホストは以前も何度か日本人を受け入れた経験があり、日本人が難しいとする「R」の発音等、美しく発音出来るように毎晩練習をしてくれた。中でも一番難しいのが (fruit cru) の発音であった。これは日本語で「生の果物」という言葉だが、この子音と母音がくっつくと、日本人にはとても難しい発音になる。お父さんは辞書まで取り出し、そのような単語をくまなく探していて、冗談で「いじわる」と言う時「からかい好きなんだよ。」と答える程楽しく練習していた。また日曜日になると、カテドラルに行き、ミサに授かった。そのミサで皆の先導をきる歌い手の女性は何とホスト

シスターであり、そのシスターの美しい歌声の隣でお母さんが聖書朗読をし、シスターの夫とお父さんと私と並んで、一緒に時間を過ごしたことは本当に貴重で素晴らしいひと時であった。その上、毎日のご飯も



語学学校の先生方と

とても豪華で、親戚も多かった為、沢山のフランス人と出会い、会話することが出来たので、とても毎日が楽しかった。そして滞在最終日には、いつでもフランスを思い出せるようにと手作りプレスレットや、フランス時間と日本時間を写す時計をプレゼントしてもらい、また絶対に戻りたいと心から思いこの体験ができた自分を幸せだと実感した。

（留学報告書より）

フランスに来て4日目、いつものようにバスに乗って家に帰ろうとしたら、バスを乗り過ごしてしまったことがありました。降りるバス停の時に、降りることを知らせるボタンが見つからなかったのです。



ホームステイ先のマダムと

「しまった」と思い次のバス停で降りて前のバス停まで戻ろうとしたら更に迷ってしまい、一時間以上夜道を歩き、最終的には稲葉先生とドミニク校長に車で迎えに来てもらいました。その時の私は、派遣奨学生としてあまり失敗してはいけないというプレッシャーがかかって、すぐには電話を掛けられなかったのです。夜9時になっても帰ってこない私のことをマダムは心配して待っていてくださり、全く責めたりせずに抱きしめてくれました。その彼女の優しさに感動し、自分の軽率な行動が恥ずかしくなりました。この失敗を通して、沢山の人の優しさに救われたと同時に自分の非力さを身に染みて感じ、もっと責任をもって行動することが必要であるということ学びました。

特に印象に残っている出来事は、日本へ帰る3日前にマダムの友達と3人でオペラを見に行ったことです。当日券だったので別々の席になってしまいましたが、隣の席に座った見知らぬフランス人の女性から話しかけられ思いもかけず会話する機会が与えられました。その時日本のメディアについて聞かれて、自然にフランス語が口から出てきました。留学した当初の私だったら、フランス人に声すら掛けられなかったです。でも生活するうち、自分のフランス語に自信がついたように感じました。その時見たオペラは歌があったり、影絵が出たりと変化に富んだものでとても楽しかったです。

フランスでは楽しい思い出ばかりではなく、思う様に言いたいことが伝えられずもどかしく感じたこと、生活習慣の違いから体調を崩したことなど大変な思いをしたこともありました。でもこのような失敗があったからこそ乗り越えたときに大きな達成感を得ることが出来たように感じます。その時は自分の力で乗り越えたと思っていましたが、今思い返すと先生方やマダム、一緒にカリタスから来た仲間、語学学校で出会った友達が温かく見守ってくれたからこそ乗り越えられたのだと思います。良い人たちと環境に恵まれ、多くのことを吸収することが出来た1ヶ月でした。大事なことは、カリタスの授業を大切にしっかりと勉強しておくことです。私の場合ですと、会話をしている分がなくなるとは、その単語を知らなかったのが原因であったということが多かったため、出来るだけ多くの単語を覚えていったほうが良いと思います。それに加え交通機関の乗り方なども下調べをしていたら失敗も減らせたと思います。留学は、フランス文化を肌で感じられるだけではなく、自分自身を成長させることが出来るチャンスです。後輩にも自分が今持っている力を信じ、挑戦していただきたいと思います。

（留学報告書より）

教授紹介

大賀正喜教授

1932年台湾生まれ。
1953年名古屋大学仏文科卒業、
1956年東京大学大学院仏語
仏文学専攻修士課程修了。
青山学院大学助教授、立教大学
教授を経て現在外務省研修所
フランス語講師、本学非常勤講師。



<主要著書>

『現代仏作文のテクニック』、『現代フランス語名詞活用辞典』(以上大修館書店)、『現代和仏小辞典』(共著)、『書きながら考えるフランス語』、『和文仏訳のサスペンス』(共著)、『方法としての仏作文』(以上白水社)、『小学館ロベール仏和大辞典』(共同編集)、『プログレッシブ仏和辞典』(共同編集)、『ポケット仏和・和仏辞典』(監修)(以上小学館)、『フランス語の書きとり・聞きとり練習』(中級編)(上級編)(エディション・フランセーズ)

「フランス語でニュースを読む」 担当」大賀正喜教授

日時:8月5日(火)~8月7日(木)

10時~11時半 13時~14時半

午前1コマ・午後1コマ(全6コマ)

受講料:15,000円

受講人数:15名

申込締切日:7月28日(月)

申込方法:本学プティコレージュ係宛

TEL045-901-5133

受講資格:

本学仏語科、仏語・仏語圏文化専攻卒業生
又は実用フランス語検定準2級以上

講義概要:

バイオ燃料、食糧危機、人間の皮膚からES細胞など世界的に重要な問題をテーマに、いろいろなフランス語の記事を読んでみたいと思います。

Information 1

おめでとうございます!

金子愛美さん(2007年卒 学習院大学文学部フランス語圏文化学科4年生)は、同大学2008年度学科優秀賞を受賞されました。

飯田盛子さん(2007年卒 京都外国語大学外国語学部フランス語学科4回生)は、2008年度の総長賞を受賞されました。お二人は奨学金を授与され、最終学年も勉学に励んでいます。

Information 2

よろしくお願ひします!

山崎(伊東)美幸さん(1987年卒)は2008年5月の学園同窓会の総会にて、専攻科短大部の部長として再任されました。

魚躬(塚原)有理さん(1988年卒)は、短大の同窓生による高校訪問スタッフとして、2008年度も広報活動のお手伝いをいただいています。訪問先からも好評です。

Information 3

お訪ねください!

HPがリニューアルされました。カリタス短大のHPは、エリック・ボグナール教授が作成しています。

HP:<http://www.caritas@caritas.ac.jp>

携帯HP:<http://www.caritas.ac.jp/i/>

稲葉延子教授は、NHK文化センターで10月に、連続講座「パリのパッサージュからみえるもの」を開きます。

<http://www.nhk-cul.co.jp/school/aoyama/index.htm>

また横浜市中央図書館(桜木町下車)で講演「姉妹都市リヨンを知る」よこはま大学リレー講座を11月23日(日)に予定しています。問い合わせは、inaba@caritas.ac.jp

【編集後記】 今号は、中国語をものにして活躍している卒業生から原稿をいただきました。結婚されたお相手の赴任先が中国語圏、それでは、短大時代にゼロからフランス語を勉強したように、中国語を学んでみよう。なんて前向き!!自分の置かれた状況で切り開いていく、これぞカリタシエンヌです。また、お茶の水女子大の3,4年と大学院1,2年には、フランス語・フランス文学を学ぶ学生は22名が在籍、そのうちの5名がカリタシエンヌ、これにも驚かれる方は多いでしょうね。先日同窓会の懇親会では、多くの卒業生とおめにかかれしました。卒業生からのsurpriseは、いつでも歓迎です。(稲葉)

カリタス女子短期大学 言語文化学科 仏語・仏語圏文化専攻

URL:<http://www.caritas.ac.jp/france/>

携帯サイト:<http://www.caritas.ac.jp/i/>

MAIL: inaba@caritas.ac.jp

Liaisons フランコフィルのための情報誌

第7号 2008.7.3

発行人:稲葉延子(仏語・仏語圏文化専攻主任)

編集責任:稲葉延子 編集協力:内田香織